

エゾオホサンザシ信州に分布す

小泉源一

昭和十一年八月二十日、中根經三氏は信濃、小縣郡、長村、管平に於てエゾオホサンザシらしき植物を發見せしが、本年六月以降同郡本原村の横澤末木氏は予の爲めに數回管平に至りて本植物を探りて送られしかば、漸く、本植物は蝦夷島に産するエゾオホサンザシ (*Crataegus jozana* C. K. SCHN.) なる事判明せり、横澤氏の勞を深く感謝す。

四阿火山の西山腹より山麓にかけて廣大なる火山裾野あり管平と俗稱す、此にヤマハマナス (*Rosa davurica* PALL.) と共に盛大なる群落をなせり、エゾオホサンザシはエゾサンザシ (*C. chlorosarca* MAX.) に酷似し、唯葉、花序、花の内部等に毛を生ずる事多量なるの差あるのみにて一の變種なり、されば本種も予が本誌第二卷 138 頁に記せし要素の一なるは明白なり。

Crepis formosana HAYATA に就て

北村四郎

タカオタピラコ *Crepis formosana* HAYATA は珍妙な植物である。高雄の壽山の頂上の岩の附近に生ずるもので私は 1932 年これを採集しよく其の性状を見た。最近 BABCORK, STEBBINS 氏が *Crepis japonica genuina* の syn. としたので一寸一言する。丈が低いので一見して變んに思ふが、葉は早田教授の記載された如く質厚くベルベット狀に毛がありこれでオニタピラコとは見分けられる。果實は常に黒紫色であつて 2-2.5 mm. 長、花冠は 7.5 mm. 長である。葯は 2 mm. 長。オニタピラコでは果實は 1.5-2 mm. 長で小さい。花冠は 4.5-6 mm. 長で短かい。山本氏は毛が多いだけと云はれるが上述の如き差がある。私は Babcock, ステビン兩氏の *Youngia* 屬を認める意見である。

Youngia japonica subsp. *formosana* (HAYATA) KITAMURA comb. nov.

Crepis formosana HAYATA, Materials Fl. Formos. (1911) p. 163.

Crepis japonica var. *formosana* YAMAMOTO in Journ. Trop. Agric. VIII (1936) p. 357.

Herba perennis parva 7-17 cm. alta. scaposa. Folia radicalia semper velutino-pubescentia crassiuscula. Involucrum circ. 5 mm. longum. Achenia 2-2.5 mm. longa nigropurpurascentia. Corolla 7.5 mm. longa.

Hab. Formosa. Prov. Takao; mt. Kotobuki in cacumine. (feb. 1932 S. KITAMURA).